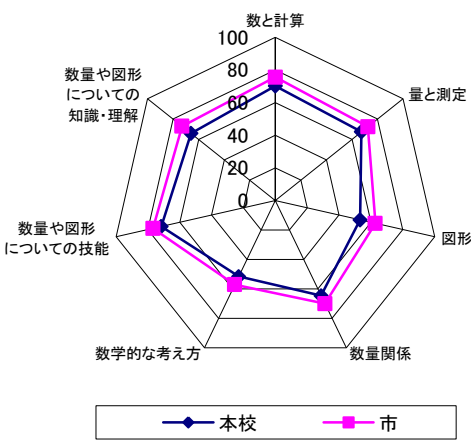


宇都宮市立宝木小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	70.2	75.6	75.8
	量と測定	67.4	72.5	71.2
	図形	53.2	62.8	71.0
	数量関係	64.6	70.1	66.0
観点別	数学的な考え方	51.6	57.2	52.7
	数量や図形についての技能	71.6	76.7	74.1
	数量や図形についての知識・理解	66.1	73.0	77.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●分数の計算では、分数÷分数(約分1回)の計算において77.3%と市の平均より11ポイント低い。また真分数+真分数=真分数で、通分をする計算の正答率が71.2%と市の平均より9ポイント低い。 ○図を使って、分数の除法の文章問題に合った式を選ぶ問題の正答率は、42.2%と市の平均よりも3ポイント高い。	●分数の計算では、答えを約分をすることや足し算や引き算をするときに通分することを忘れてしまうので、宿題プリントなどで繰り返し練習して身に付けさせていきたい。またテストを返却した際に、間違えた問題をもう一度解き直す時間を設け、やり直すことで定着を図れるようにする。
量と測定	●高さが図形の外にある三角形の面積を求める式を選ぶ問題の正答率は50.8%と市の平均より11ポイント低い。単位量当たりの考え方を使って値段を比べ、その方法を説明する問題の正答率は、68.9%と市の平均より8ポイント低い。 ○速さと時間から道のりを求める(単位換算あり)問題の正答率は40.9%、台形の面積を求める問題の正答率は76.5%と、市の平均とほぼ同じである。	●面積を求める公式、単位量当たりの考え方、ともに5年生の学習内容をもとに解く問題である。高さが外にある図形や向きが変わっている図形などいろいろな問題に慣れさせることで、多様な考え方を知り、様々な面積の求め方を身に付けさせたい。また、公式や考え方を再度確認し、復習させた上で活用が図れるようにしたい。
図形	●円の直径から円周を求める式を選ぶ問題の正答率は31.8%と市の平均より15ポイント低い。線対称な図形を選ぶ問題の正答率は37.1%と市の平均より13ポイント低い。七角形の内角の和を求める式を選ぶ問題の正答率は43.2%と市の平均より13ポイント低い。 ○合同な三角形を作図する問題では、90.9%と、市の平均とほぼ同じである。	●作図することは定着しているが、円周や内角の和を求める式を選んだり、どちらが線対称でどちらが点対称なのかを判断したりすることができていない。三角形の内角の和は180度ということを活用して、多角形の内角の和を求めるやり方や円周の求め方などを結果だけでなく考え方をていねいに授業で扱うことで、理解できるようにしていく。
数量関係	●帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題の正答率は56.8%と市より11ポイント低い。反比例の関係を式に表す問題の正答率は、75.0%と市の平均より9ポイント低い。 ○文字を使って2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は、81.1%と市の平均とほぼ同じである。	●帯グラフについては社会など様々な教科の学習で取り扱うことで、グラフに慣れさせ理解を深めていきたい。割合の問題については、問題の意味を理解することが難しいので、生活の中で割合を使う場面を設け、どんな時に活用するのかを理解できるようにし、もとにする量や比べられる量がどれになるのかを選択できる力を身に付けさせたい。